

女性研究者支援元年のモデル事業

資料1：振興調整費モデル支援事業を開始した各大学に
おける進展

資料2：振興調整費による“女性研究者支援事業”と
その波及効果

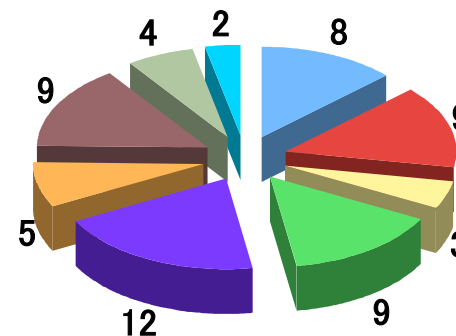
平成19年5月

第5期男女共同参画学協会連絡会調査資料抜粋

振興調整費効果

- 支援室設置が事業の推進力・加速の源となっている。
- 女性研究者支援が全学の事業として認知。
 - ① 支援に関する全学の合意形成がスムーズになった。
 - ② 支援に関する学内のバラバラのとりくみの統合化
 - ③ 財政を含めた種々の支援や制度整備が進んだ。
 - ④ 学内外の理解度アップ
 - ⑤ 理系への女子受験生アップ
- 複数拠点・全国展開の強み
- 他大学でも支援室を設置する大学数がアップ(資料2)
- 子育て中の女性研究者の表情が明るくなった。
- 学内の出生率が上昇傾向にある。

スタートしたモデル事業

支援事業内訳
(9大学の回答より)

- 支援室設置
- 特任教員・支援室要員の雇用
- 病児保育・病後児保育
- 直接支援(産・育休支援要員・クーポン・IT)
- 広域支援(データベース・メンター等)
- 次世代支援(SA・出前授業・実験教室)
- シンポジウム・啓発活動
- 柔軟な制度整備の準備
- その他

さらなる正のスパイラル
効果を目指して。

- 是非とも本事業の**継続的支援**を！！
- 実状に応じて**効果的な実施**が可能、かつ**柔軟な**制度設計と予算措置を！！。
- 同じ予算枠でも、自由度が高ければ事業のさらなる**活性化**と将来への**波及効果**が期待されるぞ！！
- さらによい方向にむけて**文部科学省・JST・大学のより緊密な連携**を！！ (弾力的予算運用等)
- **病児保育・学童保育**は**必須の支援アイテム**、保育事業に関する**支援拠点数の拡大**を！！。

始めて(初めて)わかった予想外のハードリング

- 保育事業・学童保育が必要だったのに、スタートできなかった… → (開設を断念・間接経費を使用)
- 病児保育の消耗品・備品費を出したかったけど… → (利用者の経済的負担が大幅アップ)
- 実質半年間の事業で予算を執行する大変さ… → (事業計画変更で乗り切る)
- 育児支援要員制度が認められなかった… → (事業計画変更・間接経費運用で乗り切る)
- 「文部科学省・JST・大学ともより良い方向に向けて努力中であり、現時点でこれ以上のコメントを上げるのは時期尚早です」という意見も寄せられた。

資料2

振興調整費による “女性研究者支援事業”とその波及効果

2007年5月
男女共同参画
学協会連絡会調べ

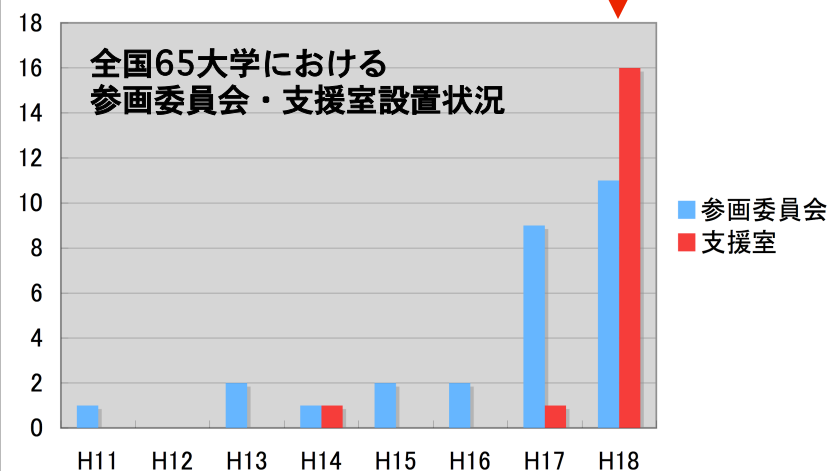
● 平成18年度 10 機関
● 平成19年度 10 機関

5大学(東京地区)

3研究所(筑波地区)

振興調整費
スタート

- 点の支援の初年度、
- 線の支援の次年度、
- ネットの支援の3年度を
めざして！！



❖上図の作成には、NISTEP調査資料-130 pp27-pp34「平成18年度
大学等における科学技術・学術活動実態調査報告」を引用しました。
また、別途連絡会がしらべた調査結果も付加したものです。